馬渡の眼 17

短信

- 子ども食堂 番外篇 -

馬渡 德子

春休みの4月3日。昨年夏休みに学童保育支援に伺った穴水町平和こども園・併設する学童保育にN-ASCAT(能登半島地震子どもの放課後支援チーム)として伺った。今回からは、子ども食堂に参加している小中学生も参加した。

こちらは、発災直後に園長・副園長が中心となって園を自主避難所とし、自主炊き出しを行い、馴染みのある環境で妊婦・乳幼児・幼児とそのきょうだいと保護者の生活を3月末まで支援してきた。(NHK・Eテレ「すくすく子育て」で2025年2月に2回放映)

時期的に進級・進学祝いをしようと、認定 こども園の子どもたちも対象とした企画と なり、前もって直接出向いて子どもたちの 要望をききながら、準備を進めてきた。

また、加賀地区で音楽療法を取組んでおられるピアノの先生方のその子どもたちも新たなチーム員となったことから、「場のつくり方」にお知恵を活かすこともできた。

「約束守ってくれたね」「秋の豪雨で、もっと大変な目に遭った所があるから、ぼくらの所には急に誰も来なくなっていたんやよ。なんか見捨てられたみたいな気持ちになった」「待っとったよ」

「けん玉上手になったよ」「ディアボロ、

こんなんできるよ」「教えてもらった筒形紙 飛行機を改造したらこんなに飛ぶよ」

定期的な交流も2年目となり、今年度は「企画段階から現地の子どもたちとつくる」 こととした。

全国の学童保育連絡協議会指導員会から



寄付頂いたおやつは、懐かしいひも付きく じ引きにしたり、子どもたちの提案でドキ ドキ感を演出できた。

コンサートや、かえるパサールも最初は 照れくさそうだったが、自分でやりたいこ とを選んで愉しんでいた。

「先に打ち合わせに来てくれて、どんなんしたい? って、聞いてくれて嬉しかった」「みんなで作った楽器もどきを使って演奏して、面白かった」「今どきの曲で盛り上がった」「小学生や中学生のお兄さん、お姉さんも来てくれて楽しかった」

かえるパサールのおもちゃや本、学用品は、昨年から継続して子ども食堂と勤め先の保育園、金沢大学、学童保育で集めているので、我が家の二階の空き室はおもちゃ屋さんのようになっている。

さて、次回は、園長先生のご提案で、仮設 住宅で暮らす子育て世代の方々にも広く呼 びかけて、夏休みから秋にかけて実施する 予定である。

子どもたちと準備を進める過程が楽しみだ。

そうそう、私たちの活動のキャラクター「ナスにゃん」缶バッチ(子ども食堂の中学生が作成)が、Instagramを通じて反響を呼び、開設同時からずっと画材や学用品や金銭的なご寄付をいただいてきた元美術の先生が開催される夏の個展の景品に選ばれた。ナスにゃんを生み出した2人の子どもたちは、とても嬉しそうで、個展には希望者を募ってでかける予定である。

